

令和6年度 幼保連携認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価		
社会福祉法人ゆりかご福祉会		ゆりかごWEC学院
各項目 まとめ（代表的なものを抜粋）		
第2章第2節 乳幼児期の園児の保育	個々に合わせることで、一人ひとりが伸び伸びと発達し、成長することが出来た。 個々の発達に応じて、活動の内容を合わせることで伸び伸びと成長し、リトミックやタッチケアなどお通して感性や表現力を養えた。	
第2第3節 満1歳以上満3歳未満の園児の保育	友達の関係性も出来始め、気の合う友達と遊ぶことが多くみられるようになる。その他の友達とも多く関われるように、普段と違うメンバーでグループを組んで知育遊びを取り組んだりする。そうする中で関係性に変化も見られた。	
第2第4節 満3歳以上の園児の教育及び保育	戸外遊びなど積極的に園庭に出て体力をつけれるよう意識した。 ただ、行事でのおけいこが始まるとなかなか戸外遊びの時間がなかったので少しの休憩でも外に出れるようになると良いと思う。 食育活動では野菜を育ててクッキングしたり、食材についていろいろ知ることが出来た。	
第2章第5節 教育及び保育の実践に関わる配慮事項	園児一人ひとりのその時の気持ちや行動をしっかりと受け止め適切な援助をしていきたい。そのために保育教諭同士の協力、共有し配慮を必要とする点を十分に話し合うことが必要だと思う。保護者、子供が楽しく通えるよう、また信頼し合える関係性を築けるよう適切な配慮ができるよう努めていきたい。	
第3章 健康及び安全	今年度は伝染性紅斑（リンゴ病）・インフルエンザ・ノロウイルスの感染大流行し、保健所の指導も入り、徹底した手洗い、消毒、換気を行い終息になりホッとした。感染症により消毒の種類も異なりその都度、周知徹底を行えた。ただ職員の中には、毎回嘔吐処理の仕方が違ったり、汚染された手でさわったり、処理後のマスク交換を忘れていたりと細かなところが間違っていて、正しい知識の共通理解が必要だと再認識させられた。	
第4章 子育ての支援	子どもの様子を見ながら、成長を感じたことなどを保護者に伝えるようにした。短い時間の会話でも保護者から何かを引き出せるようにコミュニケーションを図ることが出来た(家での様子)。 登降園時にこまめに話をしたり、必要な時には助言したりし、信頼関係を築くことが出来た。	
第5章 職員の資質向上	今年度を振り返り反省点も多かった。後輩育成に頭を抱えることが多く言葉で伝えてもなかなか難しいが、根気強く対応していくと共に、常に見られていることを意識して日頃の保育に携わっていきたい。	
項目別5段階評価平均値		
評価項目	5段階評価 平均	評価基準
乳児保育	4.2	5⇒あてはまる 4⇒どちらかといえばあてはまる 3⇒どちらでもない 2⇒どちらかといえばあてはまらない 1⇒あてはまらない
3歳未満児保育	3.8	
3歳以上児保育	4.2	
教育保育の配慮事項	4.1	
健康・安全	4.1	
子育ての支援	4.3	
職員の資質向上	3.9	
全項目平均	4.1	
（園長評価） 今まで行ってきた教育・保育内容を振り返る自己評価が良い機会となっている。 不適切保育など保育士・保育教諭としての資質や専門性について、社会全体でも厳しく評価される。 主体的なこどもの活動や教育・保育を取り入れる難しさを実感しながら試行錯誤で行っている。 働きやすい職場づくりも毎年進めており、意欲を持って仕事に取り組める環境づくりも大切であると 考え仕事内容の精査や休憩時間の取り方など変えていっているところである。。		